



研究部だより CONNECT

Creating a Fun School Where Everyone Thrives!
子どもも大人もいきいきと活躍する楽しい学校づくり

実践
共有編

2026.8

VOL.7



視覚支援

をテーマに業務改善

VOL7・8連続企画！

今回は

情報の見える化

に注目

実践者の情報

校 種 小学校
学 級 数 8 学級
経験年数 10年目

視覚支援 とは



視覚支援とは、情報やモノの見せ方を工夫し、誰もが迷わずスムーズに業務を進められる環境を整えることで

す。「テプラで表示を作る」「大事な部分にマーカーで印をつける」といった、私たちが普段から身近に行っている「見える化」も、立派な視覚支援の一つです。こうした小さな見せ方の工夫を重ねることは、単に見落としを防ぐだけでなく、誰もが自ら気づいて行動できる、働きやすい環境づくりにつながります。

小さな工夫でより良い環境を作っていく視覚支援の取組を紹介します。

01

ホワイトボードの活用による情報伝達の改善

改善前

抱えていた課題



先生方に様々な連絡や書類提出を求める場面では、口頭・紙資料・校務支援システム等で伝達。

しかし、情報量が多い学校現場では重要な連絡が埋もれてしまい、見落としや聞き逃しが発生しやすい。

解決へのひらめき

養護教諭が児童の出欠状況を職員室のホワイトボードで周知している姿に注目

「重要な情報を一か所に集約すれば、

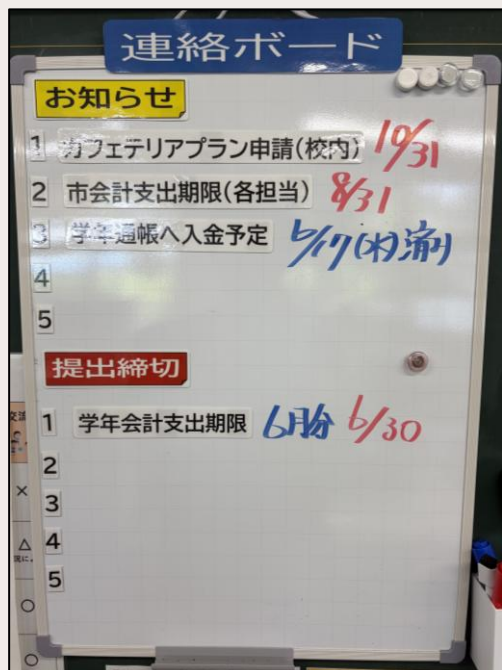
誰でも一目で確認できるのでは」と発想



改善後

取り組んだ内容

毎日目にする場所に、情報を一目で確認できるホワイトボードを設置



point!

「お知らせ」「提出締切」
を色分けして表示

職員の反応



「まずホワイトボードを見れば分かる！」
「期限が分かりやすくて助かる！」

¥ 掛かった費用 約 800 円

意識したポイント

「情報の埋没」を防ぐ視覚化で
自発的な行動をサポート

- 職員室の動線上の目に入りやすい場所に情報を集約し、色分けや期限を明示をすることで「情報の埋没」を防止
- 「今、何をすべきか」が一目で伝わるようにし、職員一人一人が自分で判断して動ける環境づくりを意識

もたらされた成果

- ✓ 自ら情報を取りに行く習慣が定着
職員室の動線上に設置したことで、「まずホワイトボードを見る」行動が定着し、提出期限の忘れが減少
- ✓ 校務のやり取りがよりスムーズに
期限や優先度が一目で伝わり、情報共有の仕組みとして校内にしっかり浸透

取組を振り返って

情報は「伝えたか」ではなく「相手が確認しやすい状態になっているか」が重要であることを実感しました。情報を一か所に集約し、見やすく整理することで、職員が自ら確認し行動する習慣につながりました。デジタル化が進む現代だからこそ、誰もが瞬時に確認できる「アナログの視覚支援」には大きな価値があると改めて感じています。



新潟県学校事務研究協議会

新事研は、子どもも大人もいきいきと活躍する
楽しい学校づくりを目指します

■ ホームページ

<https://shinjiken.ngt.ed.jp>



Thank you for reading



アンケートにご協力ください！



今回の実践に対する **感想** や **意見** をぜひお聞かせください。

ご回答内容は実践者と共有させていただくほか、次号以降でご紹介することがあります。



回答期間 | 令和8年9月2日（水）まで



皆様の **実践** を **大募集** しています！

実践の共有が会員の学びと励みになります。ぜひ皆様の実践をご紹介します。



回答期間 | 随時お待ちしております



回答は
こちらから

<https://forms.gle/A8zvrfazQBZHrCU36>

